

令和7年度

事業計画書

公益財団法人 帆船日本丸記念財団

目 次

1	事業運営の方針	2
2	帆船日本丸事業	3
3	横浜みなと博物館事業	5
4	みなとの賑わい創出事業	8
5	緑地管理及び研修施設事業	11
6	集客増に向けた主な重点取組	12
7	組織運営の質的向上への取組	15
8	令和7年度（2025年度）事業一覧表	16

令和7年度 事業計画

横浜市民や関係者の皆様のご努力によって帆船日本丸を誘致し、昭和 60 年（1985 年）4 月 28 日から一般公開を開始して、今年で 40 周年となります。また、帆船日本丸記念財団も昨年、設立 40 周年を迎えました。年間 7,000 万人以上が訪れ、就業者数が 13 万人を超えるみなとみらい 21 地区は横浜を代表するウォーターフロントであり、日本丸メモリアルパークは観光客のみならず働く人々にとっても憩いの空間となっています。

第4期指定管理を受託して4年目となる当財団は、これまでに築き上げた実績を踏まえて日本丸メモリアルパークを訪れる全ての方々に心地良く過ごしていただけるよう、職員一丸となって努力を続けてまいりました。令和7年度（2025年度）も、引き続き安定した運営を進めながら、新たな視点のもとに積極的に取り組みます。

令和12年（2030年）に船齢100歳を迎える帆船日本丸は経年劣化が激しい箇所もありますが、国指定重要文化財として守っていくため日々の船体整備を着実にを行い、「太平洋の白鳥」と称された美しい姿を維持していきます。また、海洋教室を始め、体験型教育プログラムの充実により海事思想の普及を進めるとともに、帆船日本丸の保存整備について理解を深めていただけるよう努めてまいります。

昨年開館35周年を迎えた横浜みなと博物館も、これまで積み重ねてきた成果を生かして魅力的な展示を行うとともに、海・港・船をテーマに、教育普及事業、収集保存事業などに引き続き取り組み、博物館としての使命を果たしていきます。特に令和7年度（2025年度）は、柳原良平没後10年を記念した企画展や戦後80年をテーマとした資料公開実施など、大きな出来事の節目の年として記念の事業を実施します。



1 事業運営の方針

(1) 年次計画の目標

日本丸メモリアルパークの来場者数 50 万人、帆船日本丸及び横浜みなと博物館有料入館者数 8.5 万人、総帆展帆実施回数 12 回、教育普及各種講座の実施回数 200 回以上とします。お客様満足度は、97%以上を目指します。

(2) 利用者の拡大と一層のサービスの向上

Web サイトでの的確なご案内のほか、SNS を利用してタイムリーな情報を積極的に発信するなど、多くのお客様にご利用いただけるよう取り組みます。各施設の安定的な運営に向けては、財団の大切なパートナーであるボランティアの協力のもと、満足度の高いサービスを提供するため、全職員がおもてなしの心で対応します。

(3) 安全・安心して利用できる施設管理

日本丸メモリアルパークを訪れる全てのお客様が安心して過ごせるよう、パーク内を定期的に巡回します。

地震、津波、風水害等の災害発生時には、迅速な避難誘導によりお客様の安全を確保し、資料避難のルールに基づき展示品や所蔵品の保全に努めます。

消防計画や地震対策マニュアルは適宜見直しを行い、消防署の指導による訓練を毎年実施します。

(4) 柔軟な利用料金体系の設定

単館券のほか、帆船日本丸と横浜みなと博物館の両施設を割引料金で 1 日楽しんでいただける共通券を販売します。

小学生から高校生までは同じ料金帯の設定とし、毎週土曜日は共通券・単館券とも一律 100 円の特別料金とします。

65 歳以上の方にはシニア割引を設定します。

そのほか、団体割引料金、旅行会社・各種企業サイトでの Web 前売りチケット料金など、多様なニーズに応える料金を設定します。

2 帆船日本丸事業

令和7年度(2025年度)は、日本丸公開40周年並びに戦後80年の節目の年となります。昭和5年(1930年)に練習船として建造された日本丸が、終戦後、上海を皮切りに釜山、シンガポール、台湾、南西諸島などから2万5,000人を超える引揚者等を帰還輸送したことは、あまり知られていません。

戦禍をくぐり抜け、練習船としての使命のみならず帰還輸送や遺骨収集等に貢献した「重要文化財帆船日本丸」を、少しでも多くの方にご覧いただき、その保存の重要性をご理解頂くために、日本丸の功績及び専門用語の解説案内板を増設し、乗船者増に努めます。一方、日本丸は、海洋教室等を通じて海や船に関する知識を学ぶための教育施設でもあります。子どもから大人まで楽しめる体験型教育プログラムをさらに充実させ、海事思想の普及に貢献します。また、公開40周年を迎えた日本丸が、船齢100歳に向け、総帆展帆などの事業を安全に実施し続けるために、大型帆船に乗船経験がある職員が日々の船体整備に努め、必要に応じて専門業者による修繕を実行します。なお、令和6年度(2024年度)に引き続き、今後も猛暑期である7月及び8月期の総帆展帆は、展帆ボランティアの安全及び健康を考慮して取りやめます。また、展帆ボランティアによる登檣礼(とうしょうれい)については、「横浜開港記念日」前日の6月1日(日)に実施します。

(1) 保存事業

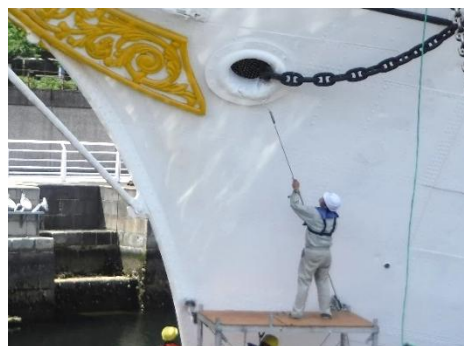
国指定重要文化財として評価された、現在希少な存在となっているリベット構造と残存する建造時の鋼材や木質及び戦後復旧された帆装艀装等を末永く保存するため、次の整備を行います。

ア 日常保守点検

「帆船日本丸保存活用計画」に基づいて、船体鋼材の発錆部整備、木甲板や船体木部の整備及び船体構造物の塗装、その他の帆装艀装の点検・整備並びにセイルの新規作製を進めていきます。また、公開区域のみならず、非公開区域を含む船内の安全点検、清掃、漏水箇所等の整備を強化します。

イ 年次船体整備等

「長期船体整備計画」に基づき、船体外板の塗装を実施します。また、帆装艀装の中から、特に一番前のマストに対し、集中的な整備を実施する予定です。その他、非公開部分を含む船体構造部材、帆装艀装及び機関室内に装備されている機器類の小破修繕等を行います。



職員による船体外板塗装

ウ 災害防止

「帆船日本丸災害防止計画」に基づき、火災や地震等の災害対策及び不法侵入者の防止に備えた24時間体制の監視を船内防災センターにおいて行います。

(2) 公開事業

年間 250 日以上船内を一般公開し、祝日の満船飾、日本丸のライトアップ及びイルミネーションの点灯（長期船体整備期間を除く）を実施します。展帆ボランティアにご協力いただき、総帆展帆を年 12 回実施します。さらに登檣礼（とうしょうれい）を「横浜開港記念日」前日の日曜日に実施します。

公開にあたっては、乗船者が無料で参加できるミニ海洋教室や有料体験型講座「トールシップの帆装艤装④」等を実施し、帆船日本丸のさらなる魅力アップに努め、リピーター及び新規乗船者の増加を図ります。特にインバウンドのお客様向けに、新たに SNS を活用した英語での広報活動を開始し、みなとみらい 21 地区を訪れる、より多くの方々に帆船日本丸の情報を提供し、街の賑わい創出に努めます。さらに、帆船日本丸への乗船経験や、海上勤務経験があるガイドボランティアと連携し、日本語及び英語の船内ガイドサービス（無料）を実施することにより、インバウンドを含めた乗船者の満足度向上に努めます。



日本丸甲板上で実施されたミニ海洋教室

(3) 青少年錬成事業等

帆船日本丸と附属施設を利用した青少年錬成のための「海洋教室」及び体験型「子ども向け船の講座」「ロープ作成ミニ海洋教室」などを実施するほか出張海洋教室を開催し、海事思想の普及に努めます。また、昭和 60 年（1985 年）以来継続し、40 周年を迎えた「よこはまこどもマリンスクール」の事業を引き続き支援します。



出張海洋教室「保土ヶ谷区民まつり」



40 周年を迎えた「よこはまこどもマリンスクール」



子ども向け船の講座「潜水艇をつくってみよう」

3 横浜みなと博物館事業

横浜みなと博物館では、これまでの活動の成果を生かし、ボランティアと力を合わせ、多くの入館者に楽しく博物館を利用していただけるよう努めます。

柳原良平アートミュージアムでは、特集展示で柳原の多彩な作品の数々を紹介し

ます。企画展は、柳原良平の没後 10 年の節目となる令和 7 年（2025 年）に企画展を開催し、多くの人に親しまれている柳原の多彩な作品を展示します。

博物館資料の保存については、水害等自然災害への対応を継続します。併せて、戦後 80 年の節目の年に関連する所蔵資料の公開を進めます。また、当館で保管している柳原作品の整理作業を進め、データベースの公開を目指します。

(1) 常設展示事業

好評の展示案内ボランティアによる団体客向けのワンポイント解説、展示案内ツアー、さらに子どもも大人も参加できる博物館クイズラリーを継続します。展示内容についての理解を深めていただき、入館者の満足度向上とリピーターの確保に努めます。



展示案内ボランティアによるご案内



ガントリークレーンシミュレーター

日本初の常設型 V R シアター

や、ガントリークレーンシミュレーター、操船シミュレーターなどの体感型展示機器については、常に良好な状態で利用できるよう努めます。

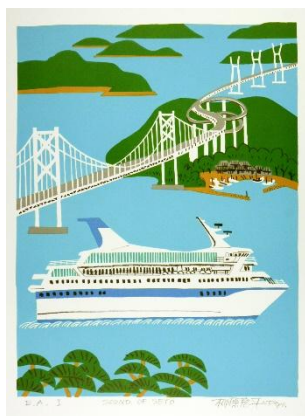
また、昨今の夏の猛暑や大雨などの異常気象の際も、お客様に安心してご利用いただけるよう展示室の環境保全や安全管理に、これまで以上に注意を払ってまいります。

柳原良平アートミュージアム特集展示では、上半期は「橋と船の博覧会」を開催します。

柳原は「橋は渡るものではなくて海から眺めるもの」と語り、橋と船のある風景を切絵、油彩、水彩、リトグラフなど多彩な技法で作品にしました。国内外の橋を客船や貨物船とともに描いた作品約 20 点を展示します。

下半期は、「柳原良平のポスター展」（仮称）を開催します。柳原は、船のポスターをはじめ、海事関係、横浜市内外の企業や団体、イベントなど、幅広い分野の PR 用ポスターを多数制作しています。柳原が手掛けた、親しみやすく、注目を集めるポスターの数々をご紹介します。

柳原良平アートミュージアム特集展示名	会 期
橋と船の博覧会	5月8日～11月16日
柳原良平のポスター展（仮称）	11月18日～令和8年(2026年)5月6日



特集展示「橋と船の博覧会」
リトグラフ SOUND OF SETO
昭和 63 年(1988 年)



特集展示「柳原良平のポスター展」(仮称)
ポスター 横浜マリタイムミュージアム
平成 5 年(1993 年)

(2) 特別展示事業

柳原良平の没後 10 年にあたる節目に、柳原の創作活動の核となる「船」「アンクルトリス」「横浜」を題材とした作品を展示しする企画展「柳原良平をかたちづくるもの一船・アンクルトリス・そして横浜」を開催します。

当館では、平成 28 年(2016 年)に横浜市に寄贈された柳原作品の中から初公開の作品をできるだけ多く展示します。

展示作品としては、柳原が船の絵を仕事にするきっかけとなった『柳原良平 船の本』の挿絵や柳原が製作した船の模型、洋酒の寿屋(現サントリー)のキャラクターアンクルトリスのグッズをはじめ、サントリーの広報誌「洋酒マメ天国」、「ビール天国」のカット用切絵などを展示します。

また、昭和 39 年(1964 年)に横浜に転居して以降、横浜での仕事の幅を広げるきっかけとなった「広報よこはま」連載漫画や、横浜港の広報誌「よこはま港」表紙、当館の前身である横浜海洋科学博物館の閉館の危機を救うために結成された「横浜市民と港を結びつける会」の資料など、横浜とともにあった柳原の足跡を紹介します。

関連事業として NPO 法人横浜シティガイド協会の案内で、柳原ゆかりの地をめぐるガイドツアーや、学芸員によるフロアガイドを実施し、展示内容をより深く理解できるような事業を行います。

開催にあたっては、外部の助成金申請および民間企業・団体へ協賛を募り、資金の獲得に努めます。



切絵 日本のクルーズ船 三隻揃い踏み
平成 21 年（2009 年）



切絵 カクテルをつくるアンクルトリス
昭和 42 年（1967 年）『洋酒マメ天国第 6 巻
カクテル』裏表紙原画

企 画 展 名	会 期
企画展「柳原良平をかたちづくるもの—船・アンクルトリス・そして横浜」	8月9日～10月13日

（3）教育普及事業

教育活動ボランティアの協力により、外国人入館者にも好評の船のおりがみ教室やペーパークラフト教室などのワークショップを継続します。

夏休みには、船の航海に欠かせない海図を使ったワークショップを開催します。



船のおりがみ教室
（教育活動ボランティア）



「親子の海図教室」の様子

（4）収集・保存等事業

ア 収集

博物館では、毎年多数の資料・図書を受け入れています。近年は多くの方から寄贈の申し出を頂くようになりました。収集した新収蔵資料を紹介する新着資料展示を年 2 回開催し、博物館の資料収集活動を紹介するとともに、資料収集協力の呼びかけを行います。

イ 保存

（ア）博物館資料を良好な状態で後世へ残すため、毎月の温湿度データの収集とそ

の解析、収蔵庫や書庫の清掃作業等を継続します。その結果に基づき、空気清浄機や除湿機等の適切な運用、資料の保存状況の確認及び常設展示資料の展示替えなど環境の適正化に取り組めます。

(イ) 収蔵庫・書庫については、水害等自然災害に備えるための対策を継続します。重要資料・図書等については、より高い場所への移動及び落下防止ベルトやネットの取り付けなどを行い、災害に備えます。併せて、収蔵庫・書庫内の整理作業を進め、保存に適したスペースの確保に努めます。

(ウ) 横浜市が博物館の浸水対策として設置した、大黒ふ頭の収蔵施設に保管されている資料の管理を横浜市と協力して行います。



書庫内書架への落下防止ベルト取付状況

(5) その他

ア 令和7年(2025年)は戦後80年の節目の年です。横浜みなと博物館で所蔵している資料のうち、昭和17年(1942年)～20年(1945年)にかけての日本語で記載された帆船日本丸航海日誌と、占領期の日本船に付与された SCAJAP(スカジャップ)番号が表示された約2,000点の船舶写真をそれぞれデジタルデータ等で初公開します。また、博物館ロビーでのパネル展示を実施する予定です。



SCAJAP 番号が表示された帆船日本丸

※SCAJAP 番号表示船＝太平洋戦争終戦後、連合国総司令部に日本商船管理局(略称 SCAJAP(スカジャップ))が設置され、鋼船で100総トン以上の日本船はすべてここに登録し、その登録番号である SCAJAP 番号を舷側に標示した船のこと。

イ 特別展示室や博物館ロビー、資料画像の貸出しなどを行い、収入増に努めます。

4 みなとの賑わい創出事業

横浜港の一層の賑わい創出、魅力向上、港らしい風景の形成などを図るため、帆船日本丸を中心とした都心部における貴重な緑地と水域を最大限活用していきます。

市民や来街者への身近な親水空間の提供や海洋性レクリエーション需要に対応した、地区の特性を活かした快適な水辺でのアクティビティを実現するなど、一層の賑わいづくりに取り組めます。

(1) 水辺の事業

静穏な水辺空間である内水域を活用したシーカヤック教室やカヌーポロ教室の開催など、水域利用による多様なマリンスポーツの普及・啓発事業を積極的に展開します。併せて、Web サイトやSNSで発信し、体験型アウトドアスポーツの魅力を伝えます。

また、帆船日本丸を中心に魅力ある光の演出や水難訓練など防災活動の場としての利用についても促進していきます。

ア シーカヤック教室

初心者向けの「半日スクール&赤レンガミニツーリング」を年 110 回程度開催し、好評をいただいている「体験会」は 30 回程度開催します。ツーリング中の写真を記念にプレゼントするなど満足度アップに努め、参加者を増やします。市内の大学との連携教室等も開催します。



シーカヤック体験会の様子

イ カヌーポロ教室



帆船日本丸カヌーポロ大会

NPO 法人横浜カヌー倶楽部・横浜市カヌー協会とカヌーポロ教室を開催することで、青少年育成とマリンスポーツの普及に努めます。令和7年(2025年)は教室も10年目を迎え、これまで暖かい時期だけの開催でしたが、7年度(2025年度)より通年事業とし、新たに上級者向け教室を新設します。6月には他県の競技団体も参加する第12回帆船日本丸カヌーポロ大会を開催します。

ウ 帆船日本丸のライトアップとイルミネーション

帆船日本丸では、毎夜ライトアップとイルミネーションを点灯し、パーク内を幻想的に演出します。「夜の横浜イルミネーション ヨルノヨ」への協力も行います。



ヨルノヨ



日本丸のライトアップとイルミネーション

エ その他

地元の警察署や消防署などが定期的を実施している水難訓練等にパーク内水域を提供します。



第二機動隊救助訓練の様子

(2) パーク利用事業(イベント)

ワークショップやコンサートなど多彩なイベントへの貸出を積極的に進めます。また、平成11年(1999年)から開催している「フリーマーケット in 日本丸」を継続して盛り上げていきます。

大型イベントでは主催者が使いやすいように、アリーナ、訓練センター、プレゼンテーションルームの一体的貸出を進めます。

キッチンカーや飲食を主たる目的としたイベントのほか、アリーナ・プレゼンテーションルーム及び特別展示室などを活用したユニークベニューやレセプションの利用促進に努めます。

横浜市やみなとみらい21地区のイベントとの連携を図ります。



「GREEN×EXPO 2027 開催 1000 日前イベント」

(3) ミュージアム ショップ事業

来館者の思い出や学びをより深める書籍・オリジナルグッズの販売を行います。

当施設へ来られないお客様にも、商品をお買い求めいただけるようにオンラインショップを運営します。



ミュージアム ショップ



5 緑地管理及び研修施設事業

市民や来街者の憩いの場となる緑地を形成し、都心のオアシスとして一層の利用促進を図ります。

また、パーク内にある研修施設（訓練センター、プレゼンテーションルーム、特別展示室）等を緑地とともに最大限に活用し、企業の会議の場、イベント・撮影等の控室として、一層の利用促進に向けた管理運営に努めます。なお、令和7年度（2025年度）から横浜市の施策を受けパーク内を禁煙とします。

（1）緑地の維持管理・活用

安全で魅力ある緑地施設として維持管理するだけでなく、直接的・間接的な広報・宣伝に寄与する様々な撮影活動などの誘致にも取り組みます。

ア 安全管理・美化

来場者が安全で快適な公園として利用できるよう、職員をはじめ警備員、中央監視員によるパーク内巡視を行い、安全確保を行います。また、高木の枝は定期的に剪定し、強風での落下を防止するほか、路面タイルの破損、欠損についても、安全確保のため速やかに補修します。加えて、パーク内景観を維持するため、植え込みや芝生の手入れ、草花のプランターの季節ごとの植え替えを行います。



花の植え替え



クスノキの枝の剪定



タイルの応急措置

イ 撮影

テレビドラマやCM等の撮影の申込件数は増加傾向にあることから、利用者のニーズに柔軟に対応することで、リピーター及び新規の利用促進を図ります。

夜景など撮影候補地の写真を Web サイトや SNS に掲載し、誘致を促進します。



テレビドラマの撮影風景

（2）研修施設（訓練センター）等の管理運営

駅からのアクセスも良く、リーズナブルで使いやすいという利点を活かし、リピ

ーターや新規利用者を増やします。

プレゼンテーションルーム及び特別展示室を多用途に貸し出すなど、一層の収入増に繋がります。



訓練センターの漏水修理

また、訓練センターの老朽化に対しても、適宜、補修、更新工事を実施し、利用者の安全性の維持に努めます。

各種研修や会議等、映画やドラマの撮影の控室、みなとみらいで開催される各種イベントなどに利用できる施設として新たな利用者層の拡大を目指します。

6 集客増に向けた主な重点取組

少子化により教育旅行マーケットが縮小するなか、個人旅行の拡大・ニーズの多様化に対応する魅力的なコンテンツ情報を的確に伝えて集客増に取り組めます。

Web サイト、インスタグラム、フェイスブックをメインに、令和7年度(2025年度)新たにX(旧ツイッター)を開始し、リアルタイムに情報発信します。

当施設単体だけでなく、近隣機関(横浜みなとみらい21や横浜市観光協会)や周辺ホテル・旅行会社・チケット販売会社との連携を強化します。

※以下、一般社団法人横浜みなとみらい21は「YMM」、公益財団法人横浜市観光協会は「YCVB」と略します。

(1) 法人マーケット(教育旅行及び企業・団体等法人)への取組

ア 教育旅行マーケット

(ア) 公益財団法人日本修学旅行協会(以下、「日修協」)発行の「月刊教育旅行」への広告掲載、YCVB サイトへの掲出等情報の発信・拡充をします。広告掲載に関しては、効果を検証し、新たな媒体への出稿にも取り組めます。

(イ) 令和3年度から実施している「豊島区立中学校1年生」全8校の横浜宿泊研修を7年度(2025年度)も実施します。

イ 企業・団体等法人マーケット

- (ア) 京浜フェリーボートと連携した「横浜港内巡りと横浜みなと博物館・帆船日本丸見学」コースの内容をリニューアルし、「JTB ならではのプラン」で 1,000 名の集客を目指します。
- (イ) 横浜みなと博物館の解説を付けた商品を旅行会社に提案し、一般団体の集客拡大を行います。



「JTB ならではのプラン」企画書

(2) 個人マーケットへの取組

ア 情報発信

総帆展帆や企画展の情報をメインに、早期にかつ回数を増やして情報を発信します。リアル媒体（ポスターやチラシ等）と Web サイトや SNS と連携することでエンゲージメントを高めます。

※エンゲージメントとは、財団の SNS と一般ユーザーとのつながりのこと。

イ 謎解きコンテンツの販売継続

令和 6 年（2024 年）に販売開始し新規需要を開拓しましたが、令和 7 年度（2025 年度）も引き続き販売を継続します。令和 7 年（2025 年）3 月～6 月に「謎解きプレゼントキャンペーン〈仮称〉」を実施し、主にファミリー層の取り込みを図ります。

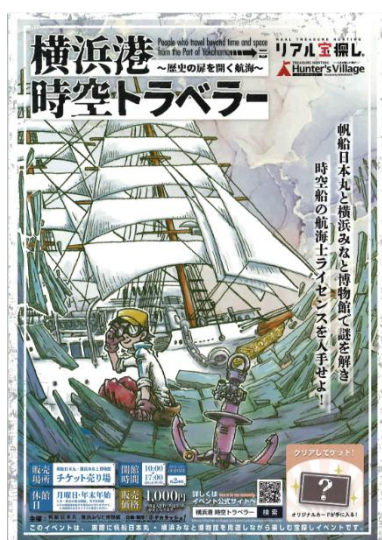
ウ インバウンド誘客拡大

令和 6 年度（2024 年度）の 12 月から 1 月にかけて新規実施した「Visit NIPPONMARU キャンペーン」を令和 7 年度（2025 年度）も継続し、年間の外国人入館者目標を 15,000 名に設定します。（前年比 150%）外国人は SNS

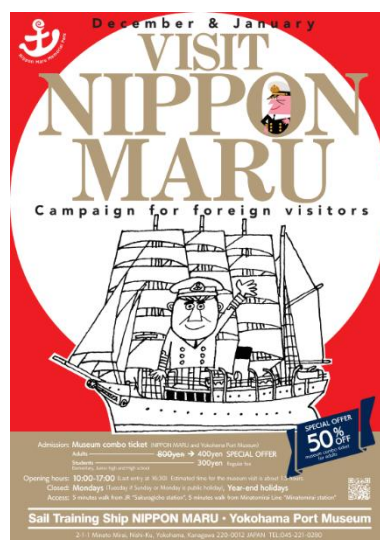
での情報取得が多いためインフルエンサーの活用など、新規の取組を行います。

エ 旅行会社・WEB チケット販売会社との連携

令和6年度（2024年度）に「JR 東海ツアーズ」を新規追加し4社となりました。令和7年度（2025年度）は1社ごとの取扱いを拡大するとともに、大手旅行会社との新規の販売連携を実施します。



謎解き「横浜港時空トラベラー」チラシ



「Visit NIPPONMARU キャンペーン」(海外割)

(3) 広報・宣伝への取組

Web サイト、SNS を活用した情報発信を強化し、メディア媒体らの取材や掲載依頼による露出拡大に取り組みます。また、日本丸メモリアルパークのインスタグラムのフォロワーを増やし、情報発信力強化のため、フォト投稿キャンペーンを新規実施します。総帆展帆や夜景の投稿を増やし、お客様に興味を持ってもらい入館につなげます。

観光情報サイト、雑誌等（横浜観光情報、横浜 Walker、るるぶ、まっぷる、ぴあ等）への情報掲載を継続します。

神奈川県が実施している「サイエンス神奈川」（旧サイエンスサマー）が、夏だけでなく通年での取り組みとなったため、参加者拡大の媒体として有効活用します。

特に、令和7年度（2025年度）は企画展「柳原良平をかたちづくるもの - 船・アンクルトリスそして横浜 -」をキラーコンテンツとして、6月から8月にかけて30媒体を目標に紹介記事の掲載を拡大します。

(4) 地域連携による賑わいの創出

YMM、YCVB、パシフィコ横浜、近隣ホテル、観光・商業施設、大学及び交通機関との連携・協力により地域情報を収集し、当館の情報発信に組み込み、回遊性を高める取り組みを推進します。

また、日本丸メモリアルパークや近隣施設は、映画・ドラマ・CM等のロケ地として年間を通して多く利用され露出されています。ロケ地としてのPRや回遊性向上のための誘客促進に向けた情報発信に取り組みます。

7 組織運営の質的向上への取組

日本丸メモリアルパークを訪れる全てのお客様に満足していただけるよう、職員、ボランティア、委託事業者等、財団関係者全員の質的向上を図ります。

(1) 風通しの良い職場づくり

毎日朝礼を実施して重要事項の伝達及び情報共有の徹底を図り、各施設を安全に運営します。また、管理職会議・職員ミーティング等を定例で実施し、来館者の動向や財務状況の確認、事業進捗状況の報告、課題検討など、財団運営の改善や職員が働き甲斐のある職場づくりを進めます。

(2) 研修の実施

サービスの継続的かつ安定的提供を行うにあたり、“おもてなしの心”でお客様をお迎えできるよう、人権啓発研修、コンプライアンス研修、個人情報保護及びセキュリティ研修等を実施します。

さらに、組織運営の質的向上を目指し、職員一人ひとりが誇りと自覚を持って業務に取り組んでいけるよう、外部講師による人材育成研修も進めます。

(3) 安全対策の取組

安全衛生委員会で職員の労働安全の取組を進めるとともに、ヒヤリハット事例を共有して来館者の安全確保を図ります。

防災訓練については、自主訓練を実施するほか、みなとみらい21地区合同防災訓練等にも参加するなど安全対策に取り組めます。

(4) アンケート調査(モニタリング)の実施

お客様満足度の向上を目指し、来館者アンケートを実施します。

アンケートの実施にあたっては、QRコードからの回答ができるようにすることで、気軽に答えていただけるようにし、集計作業の効率化も図ります。

8 令和7年度(2025年度)事業一覧表

(1) 帆船日本丸事業	
帆船日本丸公開 展示案内	・次の日を除く毎日公開 月曜日(祝日にあたる時は公開、翌日が休館日) 年末年始(12月29日～1月3日) 年次検査工事期間(1月28日～2月27日) ・ガイドボランティア等による船内ガイドを実施
総帆展帆 :実施予定回数 12回 ミニ海洋教室 親子展帆/結索: 実施予定回数4回 ロープ作成 :実施予定回数3回	4月20日(日)、4月29日(火・祝)、5月6日(火・休)、5月18日(日)、6月8日(日)、 6月15日(日)、9月21日(日)、10月5日(日)、10月12日(日)、10月19日(日)、 11月3日(月・祝)、11月16日(日) *展帆ボランティアの協力により実施 5月5日(月・祝)、5月31日(土)、6月1日(日・開港記念日前日)、11月23日(日・祝) *親子での展帆体験と簡単なロープの結び方教室を実施 8月8日(金)、8月9日(土)、8月10日(日) *船でロープを作成し、ロープの結び方を学ぶ
満船飾 :実施予定回数 15回	4月29日(火・祝)、5月3日(土・祝)、5月4日(日・祝)、5月5日(月・祝)、 6月2日(月・開港記念日)、7月21日(月・祝)、8月11日(月・祝)、 9月15日(月・祝 重要文化財指定記念日)、9月23日(火・祝)、 10月13日(月・祝)、11月3日(月・祝)、11月23日(日・祝)、1月12日(月・祝)、 1月27日(火・進水記念日)、3月20日(金・祝)
海洋教室	・半日・1日コース(募集予定人数 200人) ・宿泊コース(募集予定人数 600人) *結索訓練、甲板磨き、登ろう訓練等を実施
教育普及事業	【大人向け船の講座】 ・11月24日(月・休)「帆船日本丸エスケープトランク脱出体験(仮題)」 ハーネス着用等、安全対策のうえ、機関室後部軸室からの脱出を一部体験します。 ・1月25日(日)「トールシップの帆装艤装 ④(仮題)」 大型帆船の艤装、特に最上部に艤装された「ロイヤルヤード」の交換工事について解説、希望者はミニセールをもちいてデッキ上で帆の畳み方を体験します。 【子供向け船の講座】 ・8月10日(日) 夏休みの工作「港の小さな力持ち“タグボート”をつくって走らせよう」 大型船の出入港作業についてわかりやすく解説、工作でタグボートをつくり走らせます。 【夏休み親子宿泊海洋教室】 ・8月16日(土)・8月17日(日) 重要文化財で宿泊、椰子摺り、ロープワーク等を体験 【出張海洋教室】 日時未定。区民祭等に参加し、ロープワーク等を通して海事思想普及に努めます。

(2) 横浜みなと博物館事業	
常設展示事業	・次の日を除く毎日公開 月曜日(祝日にあたる時は公開、翌日が休館日)、年末年始(12月29日～1月3日) 収蔵庫・書庫燻蒸及び館内整備期間(1月28日～2月4日)
展示案内	展示案内ボランティアによる常設展示の説明
特別展示事業	【企画展】 ・企画展「柳原良平をかたちづくるもの一船・アンクルトリス・そして横浜」 会期:8月9日(土)～10月13日(月・祝) 【柳原良平アートミュージアム特集展示】 ・「橋と船の博覧会」 会期:令和7年5月8日(木)～11月16日(日) ・「柳原良平のポスター展」(仮称) 会期:令和7年11月18日(火)～令和8年(2026年)5月8日(金) 【新着資料展示】 新しく収蔵した資料を公開します。 会期:令和7年4月1日(火)～令和7年9月28日(日)、 令和7年9月30日(火)～令和8年3月29日(日)
教育普及事業	教育活動ボランティアの協力を得ながら次の事業を実施 ・博物館クイズラリー(ファミリー向け/年間) ・楽しい船の折り紙教室(こども向け/年間) ・サンデー・ペーパークラフト教室(ファミリー向け/年間) ・学芸員のワンポイント展示解説(7、9、11、1、3月実施) ・親子の海図教室(8月実施) ・船と港の夏休み自由研究(8月実施) ・旅行会社造成の団体ツアーでのワンポイント解説や学校団体向けのSDGs学習プログラム実施等
収集・保存等事業	・横浜港を中心とした資料調査・収集・研究・整理・保存 ・収集資料及び調査研究の成果を公開及び展示・教育活動に反映 ・収蔵資料のデータベース化推進 ・柳原良平作品の整理公開 ・帆船日本丸附資料の整理公開に向けた計画策定及び実施 ・博物館ニュース、企画展に合わせた目録等を出版・発行 ・資料貸出し・レファレンス等実施 ・画像有料貸出し ・博物館内収蔵庫の環境整備及び災害対策 ・博物館外収蔵施設内資料の管理、横浜市と協力して実施

ライブラリー事業	・横浜港を中心とした図書資料の調査・収集・整理・保存ならびに公開 ・図書資料のデータベース化推進 ・ライブラリー運営・環境整備実施 ・コピーサービス・レファレンスサービス ・博物館内書庫の環境整備及び災害対策実施
その他	・小中学校の体験学習の受入れ ・館外での活動や外部団体と連携した事業の実施 ・周辺区の教育事業や団体・企業の研修への出張講義 ・特別展示室・ロビー等施設貸出 ・戦後 80 年 太平洋戦争関係所蔵資料の公開 パネル展をロビーで開催 (パネル展会期) SCAJAP 番号標示船写真 令和7年5月 31 日(土)～令和7年8月 11 日(月・祝) 帆船日本丸日本語航海日誌 8月 15 日(金 終戦の日)～11 月 16 日(日) ※デジタルデータもそれぞれのパネル展開始日よりライブラリーにて公開開始など

(3) みなとの賑わい創出事業

水辺の事業 シーカヤック教室 (4月～3月)	【NPO法人横浜シーフレンズと連携した体験教室の開催】 ・初級者向けコース 「半日スクール&赤レンガミニツアーリング」(110 回程度) 「親子体験教室」親子体験教室(30 回程度) *大学シーカヤック開催協力(神奈川大学、横浜市立大学予定)
カヌーポロ教室 (4月～3月)	【NPO法人横浜カヌー倶楽部、横浜市カヌー協会と連携したカヌーポロ教室の開催】 ・子ども及び大人向け教室(計 28 回程度) ・上級者向け教室(毎週) ・第 12 回帆船日本丸カヌーポロ大会開催(6 月予定) ・ライトアップとイルミネーションの実施(毎日)
帆船日本丸のライト アップとイルミネー ション	
パーク利用事業	・ワークショップやコンサート、展示会など多彩なイベントへの貸出 ・大規模イベントへアリーナ、訓練センター、プレゼンテーションルーム及び特別展示室の一体的貸出 ・キッチンカーや飲食を主たる目的としたイベントなどの利用促進 ・アリーナやプレゼンテーションルームを活用したユニークベニューやレセプションの誘致 ・横浜市やみなとみらい 21 地区のイベント等との連携
ミュージアムショ ップ事業	・来館者の思い出や学びを深める書籍・オリジナルグッズを販売 ・オンラインショップの運営

(4) 緑地管理及び研修施設事業

緑地の維持管理・活用	【安全管理・美化】 ・パーク内の巡回、警備、施設の点検(毎日)、パーク内一円の清掃作業(毎日) ・1号ドックやシーカヤックパーク内水域の清掃(毎日)、ドック内及び水路の水面の清掃 ・プランターやボックス花壇への花の植替え(4回/年程度) ・花壇造りなどグリーンボランティアとの協働作業(2回/月) ・定期的な樹木の剪定、芝生の刈込、除草(適宜) ・みなとみらい21地区まちかど花壇への協賛 ・桜木町駅前美化清掃活動への参加(毎月) 【撮影】 ・撮影時間や会議室・駐車場の貸出など利用者ニーズに沿った柔軟な対応 ・利用促進のため、撮影候補地の場所をWebサイトやSNSで情報発信。 ・横浜フィルムコミッションや横浜観光協会との撮影連携
緑地の貸出	・利用日の6か月前からの予約受付サービスを継続 ・北回廊上部の貸出
研修施設(訓練センター)等の管理運営(貸会議室)	・駅から近い、リーズナブル、使いやすいなどの強みを活かした利用促進 ・利用日の6か月前からの予約受付サービス及びWebサイトによる予約受付の継続 ・マイクなど設備機器類の計画的な更新 ・プレゼンテーションルーム、特別展示室の貸出

(5) 集客増に向けた重点取組

法人マーケット	1 教育旅行マーケットへの取組 (1) 日修協発行の『月刊教育旅行』への教育旅行団体誘致のための広告掲載(毎月) (2) JTBを主とした旅行会社教育旅行部門への施設誘客営業及び教育旅行プログラムの販売連携のための営業推進 2 企業・団体等法人マーケットへの取組 (1) 誘客促進(継続・拡充) ア JTBの団体用企画商品「JTBならではの」への参画 同商品へ参画のためのコンテンツ開発・提供及び参画後のJTBへの営業推進(内容リニューアル) イ MICE誘致、企業活動・イベント等での各施設利用促進のための営業推進(「施設・イベントスペースご利用案内」を利用) (2) 利用促進に向けた情報発信(継続) ア 横浜市関係部局、パシフィコ横浜、YCVBへの情報提供 イ 旅行会社・PCO(国際会議等運営専門会社)等への情報提供 ウ Webサイトでの告知
---------	--

個人マーケット	1 主な販売先への情報の発信・拡充 (1)割引提携団体(7 団体)(継続) 「みなとぶらりチケット(横浜市交通局)、イオンカード、MM 線 1 日乗車券(他社線含む)、ハマふれんど(横浜市勤労者福祉共済)、ベネフィット・ワン、トクトククーポン(東武トップツアーズ)」及びスカイダック (2)WEB チケット各社(4 社) (株)アソビュー、(株)楽天、(株)JTB、(株)JR東海ツアーズ(新規) (3)JTB を主とした各旅行会社(継続) 2 謎解き付商品販売(継続) 宝探し(謎解き)コンテンツの販売強化キャンペーン実施 上記 WEB チケット 4 社で販売(WEB シェア 20%) 3 オンライン販売先への取組 (1)WEB チケット取扱各社(アソビュー・楽天・JTB・JR東海ツアーズ)による販売(継続・拡大) ア インバウンド誘客拡大のための販売チャンネル拡大 イ WEB チケット取扱会社数の拡大 (2)ぐるっとパスによる販売(電子化販売への対応)(継続、拡大) 2025 年度は、ぐるっとパス販売期間を 12 か月間に拡大。WEB チケット販売期間拡大効果とインバウンド集客拡大を図る。 4 オフライン(リアル)販売先への取組 (1)販売先商品プランへの取組み(継続・新規・拡充) ア 旅行会社の個人用旅行商品プランやチケット販売会社(YOKOHAMA DMC)の販売プランへの参画(コンテンツ開発等) イ 販売先各社の販売網を利用した誘客策の実施 ウ 自販強化及び販売先へのアプローチ (2)回遊性向上のためのチケットプラン・プログラム制作及び販売 ア 近隣ホテル(継続) 宿泊プランへのチケット組込販売の実施。謎解きキット販売。 イ 地域諸施設(新規) 複数施設入場用チケットプラン・プログラムの制作を検討中
---------	---

広報宣伝・プロモーションへの取組	1 メディアへの取組 新聞社、TV・ラジオ局等への情報発信及び取材依頼への対応（継続・拡充） 2 WebサイトとSNSへの取組（継続・拡充） (1) WebサイトとSNSによる情報発信の拡充 (2) 多様なマーケットに合わせた掲載コンテンツの制作 (3) 他の業種・業態の企業・団体等とのタイアップによる施設情報掲載 (4) シーカヤック・撮影・緑地利用の利用促進に向けた情報発信 (5) 取組強化に向けた体制作り 3 ガイドブック・専門誌及び地域誌への取組（継続・拡充） 「るるぶ」「まっふる」を始めとする観光系旅行雑誌等への情報発信及び取材対応 4 YCVB・YMM・パシフィコ横浜等の地域関係機関や近隣ホテル・施設との連携による広報宣伝（継続・拡充） サイエンスかながわへの掲載を、年間を通じて行い集客拡大を図る。
-------------------------	---

(6) 組織運営の質的向上に向けた取組	
風通しの良い職場づくり	・日々の朝礼における連絡事項の伝達と情報共有の徹底 ・管理職会議、職員ミーティング等を定例開催し、財団の運営状況や事業進捗の確認、課題検討等を実施
各種研修会の実施・参加	・雇用形態や職位に関わらず、財団業務に従事する全職員を対象とした人権啓発研修、コンプライアンス研修、個人情報保護研修等の実施 ・職員の人材育成を進めるため、外部講師による人材育成研修を実施
安全対策の取組	・職員及び来館者の安全を確保するための安全衛生委員会を定例開催 ・財団主催の防災訓練の実施及び近隣施設との合同防災訓練への参加
アンケート調査（モニタリング）の実施	・お客様満足度の向上を図るため、来館者アンケートを実施 ・QRコードの活用による回答数アップ及び集計作業の効率化